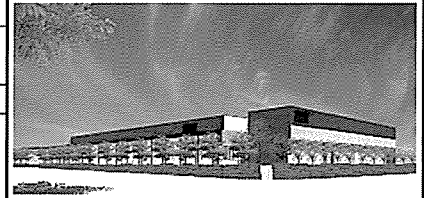


# CASBEE®-建築(新築) | 評価結果 |

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2014年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2014(v.1.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	SEW IG OPERATION CENTER新築	階数	地上 2F
建設地	京都府相楽郡精華町精華台9丁目1	構造	S造
用途地域	準工業地域、防火地域指定なし	平均居住人員	10人
気候区分	5地域	年間使用時間	2,600時間/年
建物用途	事務所、工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2015年8月 予定	評価の実施日	2014年7月24日
敷地面積	16,974 m <sup>2</sup>	作成者	今西良一
建築面積	5,793 m <sup>2</sup>	確認日	2014年8月1日
延床面積	5,427 m <sup>2</sup>	確認者	伊波一哉建築設計室



### 2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

**= BEE 4** ★★★★★

★: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C

環境品質 G (0-100) vs 環境負荷 L (0-100)

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

★:100%超 ☆:100% ☆☆:80% ☆☆☆:60% ☆☆☆☆:30%

標準計算

①参照値	100%
②建築物の取組み	82%
③上記+②以外の	82%
④上記+	82%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 3.0**

#### Q1 室内環境 (Q1のスコア= 2.6)

音環境	2.6
温熱環境	2.1
光・視環境	2.5
空気環境	3.5

#### Q2 サービス性能 (Q2のスコア= 3.7)

機能性	3.5
耐用性	3.7
対応性	4.2

#### Q3 室外環境 (敷地内) (Q3のスコア= 2.8)

生物環境	3.0
まちなみ	3.0
地域性	2.5

**LR のスコア = 3.5**

#### LR1 エネルギー (LR1のスコア= 4.0)

建物外皮の	5.0
自然エネルギー	3.0
設備システ	5.0
効率的	2.0

#### LR2 資源・マテリアル (LR2のスコア= 3.2)

水資源	3.4
非再生材料の	3.1
汚染物質	3.7

#### LR3 敷地外環境 (LR3のスコア= 3.2)

地球温暖化	3.7
地域環境	2.9
周辺環境	3.0

### 3 設計上の配慮事項

総合	その他
機械製作工場として効率、安全等を具体化する設計となっている。さらに、高省エネ建築物として地球温暖化の防止を図っている。	
<b>Q1 室内環境</b> 遮音性能に配慮し、断熱性能に優れた建物外皮の計画となっている。化学汚染物質にも配慮している。	<b>Q3 室外環境 (敷地内)</b> 敷地周囲に既存の緑地を残し、新規植栽と共に親しむことができるように配慮している。
<b>LR1 エネルギー</b> 高効率機器 (LED照明、高効率のエアコン) を採用している。	<b>LR3 敷地外環境</b> ライフサイクルCO <sub>2</sub> を削減し、地球温暖化防止を図っている。
<b>Q2 サービス性能</b> 耐用年数の永い配管配線材料を採用し、ライフラインである水・電気・通信などの防災対策に配慮している。	<b>LR2 資源・マテリアル</b> 節水器具や省水型機器を採用し、水資源の保護に努めている。分別が容易な施工方法の採用により、資源の大量消費を防ぐようにしている。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される